

オーガナイザー

解剖学第一講座	教授	金井克光
解剖学第二講座	教授	森川吉博
生理学第一講座	教授	小林克典
生理学第二講座	教授	中田正範

解剖学

教員名

解剖学第一講座

教授	金井克光
講師	山本悠太
助教	伊藤隆雄
助教	山岸直子

解剖学第二講座

教授	森川吉博
准教授	小森忠祐
助教	久岡朋子
学内助教	梶本みずき

I 授業の目的

人体の正常な構造を熟知した上で、疾病の診断と治療を正確に行えるように、肉眼解剖学、組織学（顕微鏡レベル）ならびに発生学の基本的知識を身につけ、構造と機能との関係を理解する。

II 到達目標

組織学総論

1. 上皮組織の構造と機能を説明できる。
2. 腺の構造と機能を説明できる。
3. 支持組織を構成する細胞と細胞間質（線維成分と基質）を説明できる。
4. 血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。
5. 筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。
6. 神経組織の微細構造と機能を説明できる。

内臓学、組織学各論

1. 消化器系の構造と機能との関連について説明できる。
2. 呼吸器系の構造と機能との関連について説明できる。
3. 泌尿器系の構造と機能との関連について説明できる。
4. 生殖器系の構造と機能との関連について説明できる。
5. 内分泌器官の構造と機能との関連について説明できる。
6. 脈管、リンパ系の構造とその働きについて説明できる。
7. 各臓器についての組織学的の所見を述べ、臓器間の組織学的差異について説明できる。

発生学

1. 受精から器官形成を経て個体が出来るまでの発生過程について説明できる。
2. 各器官における正常発生と先天異常の生じる仕組みについて説明できる。

神経解剖学（感覚器を含む）

1. 脳の概観を説明し、その発生の過程を説明できる。
2. 中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。
3. 脳の血管支配と血液脳関門を説明できる。
4. 主な脳内神経伝達物質（アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリン、グルタミン酸）とその作用を説明できる。
5. 髄膜、脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。
6. 脊髄、脳幹の構造と機能、及び伝導路を説明できる。

7. 脳神経の名前をあげ、その構成と機能を説明できる。
8. 大脳の構造を説明できる。
9. 大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野・連合野）を説明できる。
10. 錐体路系の構成について説明できる。
11. 小脳の構造と機能について説明できる。
12. 大脳基底核の構造と機能について説明できる。
13. 視床と大脳皮質の関係とそれぞれの構造について説明できる。
14. 視床下部・辺縁系の構造と機能について説明できる。
15. 自律神経系の構成と機能について説明できる。
16. 体性感覚の受容機構と伝導系について説明できる。
17. 視覚・聴覚・平衡覚の受容機構と伝導系について説明できる。
18. 味覚・嗅覚の受容機構と伝導系について説明できる。
19. 感覚器の構造と感覚受容のメカニズムについて説明できる。

骨・筋学

1. 骨の身体における位置と連結について説明できる。
2. 骨とその各部分の名称と意味について説明できる。
3. 関節と運動との関連について説明できる。
4. 関節における靭帯とその働きについて説明できる。
5. 筋の形態、位置、名称とその働きについて説明できる。

III 教育内容

1. 講義項目と担当者

III期

組織学総論

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 上皮組織 | 森川 |
| 2. 結合組織（血球系を含む） | 森川 |
| 3. 支持組織（軟骨・骨） | 森川 |
| 4. 筋組織 | 森川 |
| 5. 神経組織 | 森川 |

骨・筋学

- | | | | |
|----------------------|----|----|-------|
| 1. 解剖学概説、骨学・靭帯学・筋学総論 | 金井 | 伊藤 | 山岸 |
| 2. 骨学各論 | 金井 | 山本 | 伊藤 山岸 |
| 3. 靭帯学各論 | 金井 | 山本 | 伊藤 山岸 |
| 4. 筋学各論 | 金井 | 山本 | 伊藤 山岸 |

内臓学・組織学各論

- | | | |
|---|----|----|
| 1. 脈管、リンパ系
（心臓、肺循環、動脈、静脈、胎児循環、リンパ節、扁桃、胸腺、脾臓） | 金井 | 山岸 |
| 2. 呼吸器系（鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺） | 金井 | |
| 3. 内分泌器官（視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓） | 金井 | |
| 4. 泌尿器系（腎臓、腎杯、腎盤、尿管、膀胱、尿道） | 山本 | |
| 5. 男性生殖器系（精巣、精巣上体、精管、精嚢、前立腺、尿道球腺、外生殖器） | 山本 | 伊藤 |
| 6. 女性生殖器系（卵巣、卵管、子宮、胎盤、膣、附属腺、外生殖器） | 山本 | 伊藤 |
| 7. 消化器系（口腔、唾液腺、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓） | 山本 | |

発生学

- | | | | |
|-----------------|----|----|-------|
| 1. 発生学総論 | 山本 | 伊藤 | 山岸 |
| 2. 発生学各論（人体発生学） | 金井 | 山本 | 伊藤 山岸 |

神経解剖学

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 脳の概観、脊髄、脳脊髄液 | 小森 |
| 2. 脳幹、脳神経 | 小森 |

3. 神経系の発生	久岡
4. 自律神経系	小森
5. 運動系、小脳	小森
6. 大脳基底核	小森
7. 体性感覚	小森
8. 視覚	久岡
9. 聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚	小森 久岡
10. 視床、大脳皮質	小森
11. 視床下部	小森
12. 辺縁系	久岡

2. 実習項目と担当者

Ⅲ期

組織学総論実習

1. 上皮組織（食道、胃、気管、膀胱）	森川	小森	久岡	梶本
2. 結合組織（血球系を含む）（動静脈、眼、腱、骨髄）	森川	小森	久岡	梶本
3. 支持組織（軟骨、骨）	森川	小森	久岡	梶本
4. 筋組織（平滑筋、骨格筋、心筋）	森川	小森	久岡	梶本
5. 神経組織（末梢神経、神経節、脳）	森川	小森	久岡	梶本

骨学実習

1. 頭蓋骨	金井	山本	伊藤	山岸
2. 体幹骨	金井	山本	伊藤	山岸
3. 上肢骨	金井	山本	伊藤	山岸
4. 下肢骨	金井	山本	伊藤	山岸

内臓学・組織学各論実習

1. リンパ系（リンパ節、胸腺、脾臓）	金井	山本	伊藤	山岸
2. 呼吸器系（鼻粘膜、気管、肺）	金井	山本	伊藤	山岸
3. 内分泌系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓）	金井	山本	伊藤	山岸
4. 泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱）	金井	山本	伊藤	山岸
5. 生殖器系 （精巣、精巣上体、前立腺、卵巣、卵管、子宮、膣、乳腺）	金井	山本	伊藤	山岸
6. 消化器系 （舌、唾液腺、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓）	金井	山本	伊藤	山岸

神経解剖学実習

1. 大脳皮質と小脳の構造	森川	小森	久岡	梶本
2. 脊髄と後根神経節の構造	森川	小森	久岡	梶本

感覚器実習

1. 体性感覚（皮膚、知覚神経節、脊髄）	森川	小森	久岡	梶本
2. 視覚（眼球）	森川	小森	久岡	梶本
3. 聴覚・平衡覚（内耳）	森川	小森	久岡	梶本

Ⅳ期

系統解剖学実習

教官全員(解剖学第二講座が担当)

脳実習

教官全員(解剖学第二講座が担当)

Ⅳ 学習および教育方法

講義（75 コマ, 159 時間）：

解剖学第一講座

「カラー人体解剖学（西村書店）（紙媒体の本）」を必ず購入し、学籍番号、氏名を書いて骨学、内臓学

の授業・実習に持参する事。実習時間内に本教科書を読む時間を設定するため、忘れた場合欠席扱いにすることもある。一度通読した解剖の教科書は解剖の試験勉強時のみならず臨床科の勉強や医者になってからも頼れる戦友となる。デジタル本での学習はたとえば専用ソフトを用いて書き込みを行ったとしても10年、20年後には対応したソフトが無くなり、学生時代の勉強努力が無駄になるため許可しない。なお、辞書感覚で補助的に用いる参考書についてはデジタル本でも構わない。

講義資料およびスライドは一部を除き Teams 上で配布する。各自講義前にダウンロードし目を通しておくこと。また、内臓学については人体組織学カラースライド・データベース (Data base of Histology Color slides) (<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/90002989/>)を補助資料として用いる。これらの資料はタブレット端末に入れて参照してもよいが、講義解説時に書き込みを行うことになるので印刷して持参するのが望ましい。

タブレット端末などで利用できる人体の3Dソフトがあり、骨学や肉眼解剖の勉強時に使うと理解を深めることができる。特に、「ヒューマン・アナトミー・アトラス 2025 (Visible Body 社、セール期間であればとても安く手に入れられる)」と「3D Brain (無料)」は使い易くてお勧めである。

解剖学第二講座

講義はプリント、スライド等を用いて行う。組織学総論ではHISTOLOGY-A Text and Atlas with Correlated Cell and Molecular Biology、神経解剖学ではプロメテウス解剖学アトラス(頭頸部/神経解剖)を教科書として使用する(下記推薦参考書を参照)。

実習(146コマ、292時間) :

解剖学第一講座

骨学実習

学生6~8名で1班とし、各班を1~2名からなる4グループにわけ、骨標本1体を用いて頭部・体幹・上肢・下肢の各部位を4日間のローテーションで実習を行う。実習の開始時に部位ごとに集まって4名の教官がそれぞれ解説を行い、その後、各人が「カラー人体解剖学」の該当のページを読んでから骨のスケッチ等の課題を行うことでヒトの骨の構造について理解を深める。なお、「カラー人体解剖学」を読む時に、同じ部位のグループ同士が集まって相談したり、異なるグループ間で学習済みの範囲を解説しあって理解を深めることを強く推奨する。

内臓学・組織学各論実習

骨学の時と同様学生6~8名で1班とし、講義後に各人が「カラー人体解剖学」該当のページを読んでから光学顕微鏡を用いた組織標本のスケッチを行うことで、正常の組織の構造やその生理機能について理解を深める。

解剖学第二講座

組織学総論実習---学生6~7名を1グループとして、組織のスライドを観察し、配布した実習プリントに所見を加えてスケッチを行い、正常組織の構造、及びその生理的变化について理解を深める。

感覚器実習・神経解剖学実習---光学顕微鏡を用いてH. E. 染色および特殊染色標本を観察し、配布した実習プリントに所見を加えてスケッチを行う。

系統解剖実習---学生5~7名を1グループとして御遺体1体を実習の手順に従って解剖する。

脳実習---学生5~7名を1グループとして、脳の表面および断面においてその構造を観察し、配布した実習プリントに所見を加えてスケッチを行う。

V 評価の方法

解剖学第一講座

骨・筋学 講義・骨学実習

講義、実習後に試験を筆答で行う。最終成績は、実習スケッチ・出席態度20%、筆答試験80%で評価し、60点以上を合格とする。

内臓学・組織学各論 講義・実習 および 発生学講義(内臓学)

講義、実習後に試験を筆答で行う。最終成績は、実習スケッチ・出席態度 20%、筆答試験 80%で評価し、60 点以上を合格とする。

なお、「出席態度」は講義や実習の受講態度と欠席・遅刻状況を基に評価する。

解剖学第一講座の単位の認定は、骨・筋学および内臓学・組織学各論について個別に評価を行い、これら全てにおいて合格点に達することが必要である。なお、対面での実習が行えなかった場合には評価方法を変更することがある。

解剖学第二講座

(組織学総論)

講義、及び実習終了後に全範囲の試験（計 1 回：組織学総論試験）を筆答で行う。組織学実習と合わせて評価し、合計で 60 点以上を合格(筆答試験 90%、実習成績・態度 10%)とする。実習は毎回スケッチし、提出後に実習態度とスケッチの内容をあわせて評価を行う。

(神経解剖学)

試験（計 2 回：神経解剖学試験 1、神経解剖学試験 2）を筆答で行う。神経解剖学試験 1 は神経解剖学実習と、神経解剖学試験 2 は感覚器実習と合わせて評価し、合計で 60 点以上を合格(筆答試験 90%、実習成績・態度 10%)とする。各実習は毎回スケッチし、提出後に実習態度とスケッチの内容をあわせて評価を行う。

(系統解剖実習)

2 割以上欠席したものは履修の認定はしない。系統解剖実習では、実習態度を 5 段階で評価する。テストは 3 回の小テスト（筆答試験）と最終試験（口答試験）を行う。小テストは 60 点以上を合格とする。最終成績は、実習態度 50%、小テスト・最終試験 40%、脳実習 10%で評価し、合計で 60 点以上を合格とする。脳実習は毎回スケッチし、提出後に実習態度とスケッチの内容をあわせて評価を行う。

解剖学第二講座の単位の認定は、組織学総論(組織学総論試験)、神経解剖学(神経解剖学試験 1、神経解剖学試験 2)、及び系統解剖実習を個別に評価し、そのすべてで合格点に達することが必要である。

(注意) 感染症拡大などにより、学内実習室での実習が行えない場合は、評価方法を変更することがある。

VI 推薦する参考書

解剖学

- F.H.Martini,M.J.Timmons&M.P.McKinley 著 井上 監訳 カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 西村書店 (指定教科書)
- R.L.Drake,W.Vogl,A.W.M.Mitchell: GRAY'S Anatomy for Students. (2nd Ed.) ELSEVIER / Churchill-Livinstone
- 塩田浩平、秋田恵一 監訳 グレイ解剖学 (原著第 4 版) エルゼビア・ジャパン
- 金子丑之助 日本人体解剖学 (改訂 20 版) (上、下巻) 南山堂
- 森 於菟 他 分担解剖学 (第 11 版) (全 3 巻) 金原出版
- 坂井建雄、河原克雅 編 カラー図解 人体の正常構造と機能 [全 10 巻縮刷版] 日本医事新報社
- K.L. Moore, A.F.Dalley 著 佐藤、坂井 訳 臨床のための解剖学(原書第 5 版) メディカル・サイエンス・インターナショナル

組織学

- W.Pawlina, M.H.Ross: HISTOLOGY-A Text and Atlas with Correlated Cell and Molecular Biology (8th Ed.) および (9th Ed.) Wolters Kluwer (指定教科書)
- M.H.Ross, W.Pawlina 著 内山安男、相磯貞和 監訳 Ross 組織学 (原書第 7 版) 南江堂 (指定教科書)
- L.P.Gartner, J.L.Hiatt 著 石村和敬、井上貴央 監訳 最新カラー組織学 西村書店
- 藤田尚男、藤田恒夫 著 標準組織学 (第 6 版) (総論) 医学書院
- J.B.Kerr 著 河田光博、小路武彦 監訳 カラーアトラス機能組織学 (原著第 2 版) 医歯薬出版
- B.Young, J.S.Lowe, A.Stevens, J.W.Heath 著 澤田元、依藤宏、大野伸一、佐々木克典 訳 機能を中心とした図説組織学 (原書第 5 版) 医学書院

神経解剖学

- M.Schünke, E.Schulte, U.Schumacher, M.Voll, K.Wesker 著 坂井健雄、河田光博 監訳 プロメテウス解剖学アトラス (頭頸部/神経解剖) (第2版) および (第3版) 医学書院
- Drake RL, Vogl AW, Mitchell AWM著 Gray's Anatomy for Students (fourth edition) Elsevier
- 金子丑之助 日本人体解剖学 (改訂20版) (上、下巻) 南山堂
- グレイ解剖学 (原著第4版) Drake RL, Vogl AW, Mitchell AWM著 秋田恵一監訳 グレイ解剖学 (原著第4版) エルゼビア・ジャパン
- R.A.Harvey, C.Krebs, J.Weinberg, E.Akesson 著 白尾智明 監訳 リッピンコットシリーズ イラストレイテッド神経科学 丸善
- E.R.Kandel, J.H.Schwartz, T.M.Jessell, S.A.Siegelbaum, A.J.Hudspeth (eds): Principles of Neural Science (6th Ed.) McGraw-Hill
- O.Steward 著 伊藤博信、内山博之、山本直之 訳 機能的神経科学 丸善
- A.Siegel, H.N.Sapru 著 前田正信 監訳 エッセンシャル神経科学 丸善
- N.R.Carlson 著 泰羅雅登、中村克樹 監訳 カールソン 神経科学テキスト-脳と行動- (第4版) 丸善
- M.J.T.FitzGerald, G.Gruener, E.Mtui 著 井出千束 監訳 臨床神経解剖学 (原著第8版) 医歯薬出版
- J.D.Fix 著 寺本明、山下俊一 監訳 神経解剖集中講義 (第2版) 医学書院

発生学

- L.R.Cochard 著 相磯貞和 訳 ネットター発生学アトラス 南江堂
- T.W.Sadler 著 安田峯生 訳 ラングマン人体発生学 (第12版) メディカルサイエンス・インターナショナル
- U.Drews 著 塩田浩平 訳 発生学アトラス 文光堂
- K.L.Moore, T.V.N.Persaud 著 瀬口春道、小林俊博、E.Garcia del Saz 訳 ムーア人体発生学 (第11版) 医歯薬出版
- W.J.Larsen 著 相川英三、山下和雄、三木明德、大谷浩 監訳 ラーセン最新人体発生学 学生版 (第2版) 西村書店
- M.J.T.FitzGerald, M.FitzGerald 著 平野茂樹、絹谷政江、牛木辰男 訳 フィッツジェラルド人体発生学 西村書店

実習書

- 坂井建雄 著 解剖実習カラーテキスト 医学書院 (指定教科書)
- 寺田春水、藤田恒夫 著 解剖実習の手びき 南山堂

解剖学アトラス

- A.M.Gilroy, B.R.MacPherson, J.C.Wikenheiser 著 坂井健雄 監訳 プロメテウス解剖学コアアトラス (第4版) 医学書院
- W.Platzer, H.Fritsch, W.Kühnel, W.Kahle, M.Frotscher 著 平田幸男 訳 解剖学アトラス (第10版) 文光堂
- P.H.Abrahams, J.D.Spratt, M.Loukas, A.N.Van Schoor 著 佐藤達夫 訳 人体解剖カラーアトラス (原書第8版) 南江堂
- J.W.Rohen, 横地千仞, E.Lutjen-Drecoll 著 解剖学カラーアトラス (第9版) 医学書院
- F.H.Netter 著 相磯貞和 訳 ネットター解剖学アトラス (原書第7版) 南江堂
- A.M.R. Agur, A.F.Dalley 著 坂井建雄 監訳 グラント解剖学図譜 (第8版) 医学書院

VII. オフィスアワー

解剖学第一 随時 (時間が合えばいつでも)

【連絡方法】 ykanai★wakayama-med. ac. jp

073-441-0616 (担当: 金井克光)

【実施場所】研究棟4階北奥 解剖学第一教室

【備考】学修に関する一般的なことは金井が受ける。授業内容に関することは担当者が受ける。日や時間は特に限定しないが、できれば直前でもいいのでメールか電話で一報あればなおよし。大学に来ているのであれば、まずは教室に来てもらえればよい。

解剖学第二 随時（事前にアポイントをとること）

【連絡方法】 hisaoka★wakayama-med.ac.jp（担当：久岡朋子）

【実施場所】研究棟4階 解剖学第二教室

【備考】日時はメール返信時に指定

卒業時コンピテンシ	1 基盤的資質				2 医師としての基本的資質				3 コミュニケーション能力				4 医学的知識										5 医学の実践											6 医学的(科学的)探究				7 社会貢献							
	問題解決型能力	情報技術	語学能力	社会人としての一般教養	倫理観	チーム医療	自己啓発	人間関係の構築	他者への思いやり	情報交換	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	人体の発達、成長、加齢、死	疾病の機序と病態	検査・画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断・治療方法	ITの利用	生物統計、疫学	行動科学・医療経済	法令、研究倫理	患者尊厳	基本的臨床技能	臨床推論・検査所見・画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和・終末期・看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全・感染予防	予防医学	副作用・薬害	プレゼンテーション技能	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動	ボランティア活動	
解剖学1	C	C	F	C	F	E	E	F	F	E	F	F	F	F	F	F	D	C	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	D	F	F	D	D	D	D	F	F	F	F	F	
解剖学2	C	C	D	C	C	F	E	D	E	D	D	F	E	D	F	F	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F

人体の正常構造と機能

M-02-04-L

オーガナイザー

解剖学第一講座	教授	金井克光
解剖学第二講座	教授	森川吉博
生理学第一講座	教授	小林克典
生理学第二講座	教授	中田正範

生理学

教員名

生理学第一講座

教授	小林克典
准教授	木村晃久
講師	井辺弘樹
助教	堂西倫弘

生理学第二講座

教授	中田正範
准教授	廣野守俊
講師	齊藤寿郎

中山晋介

(名古屋大学医学部生理学第一講座准教授)

木村博昭

(九州医療科学大学薬学部衛星薬学講座教授)

I 授業の目的

生理学は正常な生体機能を解明する学問である。生体の正常な機能を理解しないとその異常を的確に判断できないし、治療する正確な手段も見つからない。そのため、生理学で、いかに生体機能が解明されてきたかを習得し、これまでに解明された生体の生理機能を正確に理解する。

II 到達目標

生理学第一講座（主として動物性機能の生理学）

1. 神経系の情報処理機構の基本を説明できる。
2. 膜電位、活動電位の発生を説明できる。
3. シナプスの構造と機能を説明できる。
4. 神経系の構造と機能の関係を説明できる。
5. 神経系の電気生理学的実験を説明できる。
6. 神経系の研究方法について説明できる。
7. 運動制御に関わる神経系とそれぞれの役割を説明できる。
8. 筋収縮機構を説明できる。
9. 各種感覚刺激から知覚、認知にいたる情報処理機構を説明できる。
10. 各種感覚の受容体の性質と機構を説明できる。
11. 高次脳機能と大脳皮質との関係を説明できる。
12. 情動に関わる神経系とそれぞれの役割を説明できる。
13. 大脳基底核の構造と機能を説明できる。
14. 小脳の構造と機能を説明できる。
15. 記憶と学習の神経機構を説明できる。
16. 覚醒、睡眠の神経機構を説明できる。

生理学第二講座（主として植物性機能の生理学）

1. 個体の調節機構とホメオスタシスの概念を説明できる。
2. 自律神経系の特徴、機能について説明できる。

3. 心臓と血管の機能を、細胞・組織・器官のレベルで説明できる。
4. 循環系はどのように調節され、またシステムとしてどのような性質をもつかを説明できる。
5. 気道・肺・胸郭の構造上の特徴を知り、肺内ガスを換気するための、呼吸運動の機序を説明できる。
6. 呼吸運動リズムにかかわる中枢神経（下部脳幹）機構を説明できる。
7. 体液の恒常性の仕組みを学ぶとともに、その調節に重要な役割を果たしている腎の排泄機能と排尿の仕組みを説明できる。
8. 液性情報伝達の一般的原則を学ぶとともに、システムとしての内分泌系を説明できる。
9. 生殖器の発生、機能の調節を説明できる。
10. 環境と生体の関係をめぐって、摂食・エネルギー代謝、体温調節、概日リズム、運動生理学について説明できる。
11. 止血・凝固反応について説明できる。
12. 消化器の生理、機能を説明できる。

Ⅲ 教育内容

1. 講義項目と担当者

生理学第一講座（主として動物性機能の生理学）

1. 神経生理学総論	小林
2. 神経細胞	小林
3. 筋肉	堂西
4. 運動制御	堂西
5. 視覚と眼球運動	小林
6. 聴覚と言語	木村
7. 体性感覚	木村
8. 痛覚	井辺
9. 平衡感覚	木村
10. 味覚と嗅覚	木村
11. 大脳基底核	井辺
12. 小脳	井辺
13. 情動	小林
14. 記憶と学習	小林
15. 高次脳機能	堂西
16. 睡眠と覚醒	井辺

生理学第二講座（主として植物性機能の生理学）

1. 一般生理	中田・廣野
2. 循環生理	中田
3. 呼吸生理	中田
4. 腎臓生理	中田
5. 消化器生理	中田
6. 内分泌	稲葉・中田
7. 生殖生理	橋本
8. 統合生理	中田・稲葉・木村

2. 実習項目と担当者

動物性機能の生理学（生理学第一講座）

1. 末梢神経伝導速度の測定	堂西
2. 脳波と感覚誘発電位の記録	木村

- | | |
|---------------|----|
| 3. 聴覚と視野の測定 | 井辺 |
| 4. 脳神経細胞の活動測定 | 小林 |

植物性機能の生理学（生理学第二講座）

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 呼吸機能、心電図、血圧測定（ヒト） | 稲葉・橋本 |
| 2. 心筋の興奮性、心電図（カエル） | 廣野 |
| 3. 腎機能（ヒト） | 中田 |

IV 学習および教育方法

講義（176時間）：スライドとプリントで講義される基本的知識を受講する。

実習（100時間）：計測機器等を用いて、生体の電気現象及び生体機能の測定及び観察の実習をする。

V 評価の方法

生理学第一講座

本試験の結果で学習の到達度を評価する。この評価の点数（約90%）と実習の評価点（約10%）を総合して100点満点として、60点以上を合格とする。講義期間中に行う中間試験は形成的評価とし、原則として最終評価には加えない。実習に無断欠席・無断遅刻した場合あるいは、“実習のレポート”の不提出または提出期限1週間以降の提出は不合格とする。

生理学第二講座

1. 本試験と期間内のすべての試験およびレポートの合計点で評価する。
2. 合否判定の基準は100点満点で60点とする。
3. 実習に無断欠席した場合は単位認定しない。実習の評価は諮問または本試験で行う。

VI 推薦する参考書

- 本間研一（監修）、大森治紀、大橋俊夫（総編集）、河合康明、黒沢美枝子、鯉淵典之、伊佐正（編集）『標準生理学 第9版』（医学書院）
- 宮下保司（日本語版監修）E.R.Kandel ら（編集）『カンデル神経科学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
- 岡田康伸（監修）、佐久間康夫、岡村康司（監訳）『ギャノン生理学』（丸善）
- A. R. Martin, et al. From Neuron to Brain (Sinauer Associates)
- 小澤澗司、福田康一郎（監修）、本間研一、大森治紀、大橋俊夫、河合康明、黒沢美枝子、鯉淵典之、伊佐正（編者）『標準生理学 第9版』（医学書院）
- 岡田隆夫 監訳 J.R. Levick 著 『心臓・循環の生理学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
- 泉井 亮 総監訳 河南 洋、久保川 学 監訳 ボロン、ブルペープ 著 『生理学』（西村書店）
- 岡田康伸 監訳 『ギャノン生理学』（丸善）
- 小川徳雄、永坂鉄夫 監訳 ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン）
- 坂東武彦、小山省三 監訳 R. M. Berne, M. N. Levy 著 『バーン・レヴィ カラー基本生理学』（西村書店）
- 大地陸男 著 『生理学テキスト』（分光堂）

VII. オフィスアワー

生理学第一 月～金曜日 9：00～17：00

【連絡方法】事前連絡不要

【実施場所】研究棟5階 生理学第一教室

生理学第二 月～金曜日 9：00～17：00

【連絡方法】事前連絡不要

【実施場所】研究棟5階 生理学第二教室

講義日程表

解剖学第1

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.3.24	(月)	1-2	骨・筋学講義	解剖学第1	金井・伊藤・山岸
2	R7.3.26	(水)	1-5	骨学実習	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
3	R7.3.27	(木)	1-5	骨学実習	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
4	R7.4.1	(火)	1-5	骨学実習	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
5	R7.4.3	(木)	1-5	骨学実習	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
6	R7.4.7	(月)	1	内臓学・組織学各論(心臓)	解剖学第1	山岸
7	R7.4.7	(月)	2	内臓学・組織学各論(脈管)	解剖学第1	山岸
8	R7.4.8	(火)	1-2	内臓学・組織学各論(リンパ組織)	解剖学第1	山岸
9	R7.4.11	(金)	3-5	内臓学・組織学各論実習(リンパ組織)	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
11	R7.4.22	(火)	2	骨学・筋学本試験	解剖学第1	金井・山岸
10	R7.4.23	(水)	1-2	内臓学・組織学各論(消化器系1)	解剖学第1	山本
12	R7.4.23	(水)	3-4	内臓学・組織学各論(消化器系2)	解剖学第1	山本
13	R7.4.24	(木)	2	骨学・筋学本試験	解剖学第1	山本・伊藤
14	R7.4.24	(木)	4-5	内臓学・組織学各論実習(消化器系1・2)	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
15	R7.4.28	(月)	3-5	内臓学・組織学各論実習(消化器系1・2)	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
16	R7.5.7	(水)	1-2	内臓学・組織学各論(呼吸器系)	解剖学第1	金井
17	R7.5.7	(水)	3-5	内臓学・組織学各論実習(呼吸器系)	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
18	R7.5.13	(火)	1-2	内臓学・組織学各論(内分泌系)	解剖学第1	金井
19	R7.5.13	(火)	3-5	内臓学・組織学各論実習(内分泌系)	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
20	R7.5.14	(水)	1-2	内臓学・組織学各論(泌尿器系)	解剖学第1	山本
21	R7.5.14	(水)	3	発生学総論	解剖学第1	伊藤
22	R7.5.14	(水)	4	発生学総論	解剖学第1	山岸

23	R7.5.14	(水)	5	発生学総論	解剖学第1	山本
24	R7.5.15	(木)	4-5	内臓学・組織学各論実習(泌尿器系)	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
25	R7.5.20	(火)	1-2	内臓学・組織学各論(男性生殖器)	解剖学第1	伊藤
26	R7.5.22	(木)	1-2	内臓学・組織学各論(女性生殖器)	解剖学第1	伊藤
27	R7.5.27	(火)	1-5	内臓学・組織学各論実習(男性・女性生殖器)	解剖学第1	金井・山本 伊藤・山岸
28	R7.6.9	(月)	4	内臓学・組織学各論本試験	解剖学第1	金井・山岸

講義日程表

解剖学第2

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.3.24	(月)	4,5	組織学総論	解剖学第2	森川
2	R7.3.28	(金)	4,5	組織学総論	解剖学第2	森川
3	R7.3.31	(月)	1	神経解剖学入門	解剖学第2	小森
4			2	神経解剖学(大脳)	解剖学第2	小森
5			3	神経解剖学(辺縁系)	解剖学第2	久岡
6			4	神経解剖学(感覚器)	解剖学第2	森川
7			5	組織学総論	解剖学第2	森川
8	R7.4.2	(水)	3	神経解剖学(小脳、脊髄、脳血管)	解剖学第2	小森
9			4	神経解剖学(脳幹、脳神経)	解剖学第2	小森
10			5	神経解剖学(大脳基底核)	解剖学第2	小森
11	R7.4.4	(金)	3,4,5	組織学総論	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
12	R7.4.7	(月)	3,4,5	組織学総論	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
13	R7.4.8	(火)	3,4,5	組織学総論	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
14	R7.4.9	(水)	1	神経解剖学(自律神経)	解剖学第2	小森
15			2	神経解剖学(体性感覚)	解剖学第2	小森
16			3,4,5	組織学総論	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
17	R7.4.10	(木)	1,2	神経解剖学(視覚)	解剖学第2	久岡
18			3,4,5	組織学総論	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
19	R7.4.14	(月)	4,5	組織学総論(試験)	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
20	R7.4.15	(火)	2	神経解剖学(聴覚)	解剖学第2	久岡
21			3	神経解剖学(平衡覚)	解剖学第2	久岡
22			4	神経解剖学(嗅覚)	解剖学第2	久岡
23			5	神経解剖学(味覚、体性運動)	解剖学第2	小森
24	R7.4.16	(水)	3,4,5	神経解剖学(神経解剖実習)	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本

25	R7.4.17	(木)	3,4,5	神経解剖学(神経解剖実習)	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
26	R7.4.21	(月)	5	神経解剖学(臨床神経解剖1)	解剖学第2	森川
27	R7.4.23	(水)	5	神経解剖学(臨床神経解剖2)	解剖学第2	森川
28	R7.4.24	(木)	3	神経解剖学(神経発生)	解剖学第2	久岡
29	R7.4.25	(金)	3	神経解剖学(神経発生)	解剖学第2	久岡
30			4	神経解剖学(臨床神経解剖3)	解剖学第2	小森
31			5	神経解剖学(臨床神経解剖4)	解剖学第2	久岡
32	R7.5.8	(木)	3,4,5	神経解剖学(感覚器実習(視覚、聴覚、体性感覚))	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
33	R7.5.9	(金)	3,4,5	神経解剖学(感覚器実習(視覚、聴覚、体性感覚))	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
34	R7.5.15	(木)	3	神経解剖学(試験1)	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
35	R7.5.29	(木)	3	神経解剖学(試験2)	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
36	R7.6.10	(火)	4,5	系統解剖実習説明会	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
37	R7.10.15	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
38	R7.10.21	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
39	R7.10.22	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
40	R7.10.24	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
41	R7.10.28	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
42	R7.10.29	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
43	R7.10.31	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
44	R7.11.4	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
45	R7.11.5	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
46	R7.11.7	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
47	R7.11.11	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
48	R7.11.12	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
49	R7.11.14	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本

50	R7.11.18	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
51	R7.11.19	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
52	R7.11.21	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
53	R7.11.25	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
54	R7.11.26	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
55	R7.11.28	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
56	R7.12.1	(月)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
57	R7.12.2	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
58	R7.12.3	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
59	R7.12.5	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
60	R7.12.9	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
61	R7.12.10	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
62	R7.12.12	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
63	R7.12.16	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
64	R7.12.17	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
65	R7.12.19	(金)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
66	R7.12.23	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
67	R8.1.7	(水)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
68	R8.1.8	(木)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
69	R8.1.13	(火)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
70	R8.1.14	(水)	3,4,5	系統解剖実習(予備日)	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
71	R8.1.15	(木)	3,4,5	系統解剖実習	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本
72	R8.1.19	(月)	2,3,4,5	系統解剖実習(本試験)	解剖学第2	森川・小森 久岡・梶本

※ 系統解剖実習には、脳実習(4日間)を含む。

講義日程表

生理学第一

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.5.28	(水)	1	神経生理学総論	生理学第一	小林
2	R7.5.28	(水)	2	神経生理学総論	生理学第一	小林
3	R7.5.29	(木)	4	神経生理学総論	生理学第一	小林
4	R7.5.29	(木)	5	神経細胞	生理学第一	小林
5	R7.5.30	(金)	3	神経細胞	生理学第一	小林
6	R7.5.30	(金)	4	神経細胞	生理学第一	小林
7	R7.5.30	(金)	5	神経細胞	生理学第一	小林
8	R7.6.3	(火)	1	筋肉	生理学第一	堂西
9	R7.6.3	(火)	2	筋肉	生理学第一	堂西
10	R7.6.4	(水)	1	運動制御	生理学第一	堂西
11	R7.6.4	(水)	2	運動制御	生理学第一	堂西
12	R7.6.5	(木)	1	運動制御	生理学第一	堂西
13	R7.6.5	(木)	2	視覚・眼球運動	生理学第一	小林
14	R7.6.5	(木)	3	視覚・眼球運動	生理学第一	小林
15	R7.6.5	(木)	4	視覚・眼球運動	生理学第一	小林
16	R7.6.5	(木)	5	視覚・眼球運動	生理学第一	小林
17	R7.6.6	(金)	3	聴覚・言語	生理学第一	木村
18	R7.6.6	(金)	4	聴覚・言語	生理学第一	木村
19	R7.6.6	(金)	5	聴覚・言語	生理学第一	木村
20	R7.6.10	(火)	1	聴覚・言語	生理学第一	木村
21	R7.6.10	(火)	2	体性感覚	生理学第一	木村
22	R7.6.10	(火)	3	体性感覚	生理学第一	木村
23	R7.6.11	(水)	1	体性感覚	生理学第一	木村
24	R7.6.11	(水)	2	痛覚	生理学第一	井辺
25	R7.6.11	(水)	3	痛覚	生理学第一	井辺

26	R7.6.11	(水)	4	平衡感覚	生理学第一	木村
27	R7.6.11	(水)	5	平衡感覚	生理学第一	木村
28	R7.6.12	(木)	1	自習(講義予備日)	生理学第一	
29	R7.6.12	(木)	2	中間試験	生理学第一	小林、木村、 井辺、堂西
30	R7.6.12	(木)	3	味覚・嗅覚	生理学第一	木村
31	R7.6.12	(木)	4	味覚・嗅覚	生理学第一	木村
32	R7.6.12	(木)	5	大脳基底核	生理学第一	井辺
33	R7.6.13	(金)	3	大脳基底核	生理学第一	井辺
34	R7.6.13	(金)	4	小脳	生理学第一	井辺
35	R7.6.13	(金)	5	小脳	生理学第一	井辺
36	R7.6.16	(月)	3	情動	生理学第一	小林
37	R7.6.16	(月)	4	情動	生理学第一	小林
38	R7.6.16	(月)	5	情動	生理学第一	小林
39	R7.6.17	(火)	1	記憶・学習	生理学第一	小林
40	R7.6.17	(火)	2	記憶・学習	生理学第一	小林
41	R7.6.17	(火)	3	高次脳機能	生理学第一	堂西
42	R7.6.17	(火)	4	高次脳機能	生理学第一	堂西
43	R7.6.17	(火)	5	睡眠・覚醒	生理学第一	井辺
44	R7.6.18	(水)	1	睡眠・覚醒	生理学第一	井辺
45	R7.6.18	(水)	2	中間試験解説(1)	生理学第一	小林、木村、 井辺、堂西
46	R7.6.18	(水)	3	中間試験解説(2)	生理学第一	小林、木村、 井辺、堂西
47	R7.6.18	(水)	4	生理学実習-事前説明(1)	生理学第一	小林、木村、 井辺、堂西
48	R6.6.18	(火)	5	生理学実習-事前説明(2)	生理学第一	小林、木村、 井辺、堂西
49	R7.6.19 ~R7.7.2			生理学実習	生理学第一	小林、木村、 井辺、堂西

講義日程表

生理学第二

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.4.16	(水)	1	生理序論 1	生理学 2	中田
2	R7.4.16	(水)	2	生理序論 2	生理学 2	中田
3	R7.4.17	(木)	1	生理序論 3	生理学 2	中田
4	R7.4.17	(木)	2	生理序論 4	生理学 2	中田
5	R7.4.21	(月)	3	生理序論 5	生理学 2	中田
6	R7.4.21	(月)	4	生理序論 6	生理学 2	中田
7	R7.4.22	(火)	3	循環生理 1	生理学 2	中田
8	R7.4.22	(火)	4	循環生理 2	生理学 2	中田
9	R7.4.22	(火)	5	循環生理 3	生理学 2	中田
10	R7.5.8	(木)	1	呼吸生理 1	生理学 2	中田
11	R7.5.8	(木)	2	呼吸生理 2	生理学 2	中田
12	R7.5.12	(月)	3	腎臓生理 1	生理学 2	中田
13	R7.5.12	(月)	4	腎臓生理 2	生理学 2	中田
14	R7.5.12	(月)	5	腎臓生理 3	生理学 2	中田
15	R7.5.16	(金)	3	発生生理 1	生理学 2	橋本
16	R7.5.16	(金)	4	一般生理 1	生理学 2	廣野
17	R7.5.16	(金)	5	一般生理 2	生理学 2	廣野
18	R7.5.19	(月)	3	消化生理 1	生理学 2	中田
19	R7.5.19	(月)	4	消化生理 2	生理学 2	中田
20	R7.5.19	(月)	5	消化生理 3	生理学 2	中田
21	R7.5.20	(火)	3	内分泌生理 1	生理学 2	稲葉
22	R7.5.20	(火)	4	内分泌生理 2	生理学 2	稲葉
23	R7.5.20	(火)	5	内分泌生理 3	生理学 2	稲葉
24	R7.5.21	(水)	4	内分泌生理 4	生理学 2	稲葉
25	R7.5.21	(水)	5	内分泌生理 5	生理学 2	稲葉

26	R7.5.21	(水)	3	内分泌生理 6	生理学 2	稲葉
27	R7.5.21	(水)	4	内分泌生理 7	生理学 2	中田
28	R7.5.21	(水)	5	内分泌生理 8	生理学 2	中田
29	R7.5.22	(木)	3	環境生理 1	生理学 2	中田
30	R7.5.22	(木)	4	環境生理 2	生理学 2	中田
31	R7.5.22	(木)	5	環境生理 3	生理学 2	中田
32	R7.5.23	(金)	3	生殖生理 1	生理学 2	橋本
33	R7.5.23	(金)	4	生殖生理 2	生理学 2	橋本
34	R7.5.23	(金)	5	発生生理 2	生理学 2	橋本
35	R7.5.26	(月)	3	環境生理 4	生理学 2	中田
36	R7.5.26	(月)	4	環境生理 5	生理学 2	中田
37	R7.5.26	(月)	5	環境生理 6	生理学 2	中田
38	R7.5.28	(水)	3	臨床における生理学的思考	外来講師	木村
39	R7.5.28	(水)	4	臨床における生理学的思考	外来講師	木村
40	R7.5.28	(水)	5	臨床における生理学的思考	外来講師	木村
41	R7.6.2	(月)	3	統合生理	生理学 2	中田
42	R7.6.2	(月)	4	統合生理	生理学 2	中田
43	R7.6.2	(月)	5	統合生理	生理学 2	中田
44	R7.6.3	(火)	3	統合生理	生理学 2	中田
45	R7.6.3	(火)	4	統合生理	生理学 2	中田
46	R7.6.3	(火)	5	統合生理	生理学 2	中田
47	R7.6.4	(水)	3	統合生理	生理学 2	中田
48	R7.6.4	(水)	4	統合生理	生理学 2	中田
49	R7.6.4	(水)	5	統合生理	生理学 2	中田

講義日程表 (補足)

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.4.2	(水)	1	実験動物と動物実験利用講習	動物実験施設	磯野
2	R7.4.2	(水)	2	実験動物と動物実験利用講習	動物実験施設	磯野